【Ver.2409】

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき，研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば，他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で，研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて，研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので，その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも，研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

高位脛骨骨切り術の術後鎮痛方法に関する調査、後方視的研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部　麻酔科学系麻酔科学分野（附属板橋病院　麻酔科）　神谷岳史

＜研究期間＞

機関の長の初回許可日　～　令和　７（西暦　２０２５　）年　３月　３１日

＜対象となる方＞

日本大学医学部附属板橋病院手術室にて予定手術の片側高位脛骨骨切り術をうけた患者様が対象です。

＜研究の目的＞

変形性膝関節症患者の手術として高位脛骨骨切り術が行われます。骨切り術の術後痛は中等度から重度の痛みが生じ、十分な術後鎮痛が求められます。しかし欧米のガイドラインをみてもこの手術の術後鎮痛方法において推奨されている方法は存在しません。過去に当院で行われた高位脛骨骨切り術の術後鎮痛の経過を調査し、どの末梢神経ブロックが効果的だったかを評価します。

＜研究の方法＞

２０１９年１０月１日から２０２４年９月３０日までに日本大学医学部附属板橋病院の整形外科で行われた予定手術の片側高位脛骨骨切り術を受けた患者様の背景や術式、麻酔方法、術後鎮痛の経過を電子カルテや麻酔記録を用いて調査します。施行した末梢神経ブロックの種類で群分けし疼痛経過を比較します。

＜研究に用いる試料・情報の項目＞

手術室退室後から初めて鎮痛薬を要求した時間

術後24時間までのNRS、術中のオピオイドの使用量、嘔気嘔吐や神経ブロックの効果遷延（運動神経麻痺、感覚神経麻痺）の発症率

血液検査、呼吸機能検査、生理学検査、画像検査、鎮痛薬の種類、麻酔方法、術式、患者背景

＜研究を実施する機関組織＞

日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野

＜お問い合わせ窓口＞

03-3972-8111（内線）7916

※研究対象者とは，以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方